

ほっぷ・ステップ・Jump!

(保っ父)

1998.07.11 Vol.37 発行:北海道の子どもと保父の会

雨に打たれて

by 幹事ホソヤ

保父会の行く末を見た 何がおもしろくないってさ、人があつまらんのよ、この会は・・・。な～んていきなりグチってもしようがないので、いってみよう6月の飲み会報告!!

一応幹事引き受けたし、はとの父母が調理長やってる店(おでんと雑炊が絶品!お試しあれ)予約したさ。1回目の電話「多分15人ぐらい(大きくてたな)、2回目「10名でとって下さい」、そして前日3回目「仕入れまだだったら7人にして」(はずかし～、でも損するよりマシ)。

そんなこんなでやって来た当日、10分前に行きや大丈夫と思ったが6:40頃到着、そんで一番乗りが30分後(ちなみに桂田)。次TELが入って「ごめんねすすきの、遅れたけど今行くから」とブッチャン。すすきのからのはずなのに、えらく時間かかった(どっか走ってきたしよ)。それからポツリポツリと集まって全員集合は8:00前、しかもたったの5人。オイオイ勘弁してよ、でもとりあえずスタート。

時を追うごとにパワー全壊、まちがったパワー全開、船戸敬悦(そうそう、この原稿の題名、彼(ケッツとか言うな)の連載からパクった)。聞き上手藤原(えらいぞ～本領発揮)。そういえばいきいきしてたな、藤原は。意気消沈わたるさん(具合悪いとか言っちゃって)。時が経っても無言のかつ(変化したのは、ビールが巨峰サワーなる飲み物になったのみ)。・・・酔えね～よ酔えね～よ、なんぼ飲んでよ～、オロロ～。

とにかく、本日船戸敬悦オンステージ、てな感じのひとときでした。何話したかは本人に聞いて、覚えてね～かも知れんけど・・・。とりあえず、風に吹かれるやつは函館からがスゴイらしいです(でも、藤原の連載に押されて出せないらしい、何で～?)。

という感じだったのさ、6/19の例会は。そのあと亘さんと「飲み直すか」って行ってただけど、諸事情あってその話もあえなく却下、そのまま寂しく帰宅したわけさ。おもしろかったんだよー、船戸先生も久々にきてくれたしさー。でもな～んか不消化ぎみなのさ。全てはこの悲惨な参加状況だよ、きつと。

だんだん腹立ってきたから、このぐらいにしとしましよ、グッチ裕三は。うまいもん食えたし(ね～、5人でね～)まあいいか～ってな感じですよ。



明るい話題にしよ～よ(自分に言い聞かせてる)。

小田さん、おかえりなさい!一時はどうなっちゃうのかと思ったよ。それが、無事生還してみたら、ぜ～んぜん変わってないんだもん。うれしかった。首回らなくたっていいじゃん、そのまんまの姿で帰って来たんだから。ホッ

あえて名前は出さんけど、事務局の人!いつもバドワイザー飲みまくって真っ赤になってる人(確かフェラーリ好き)、今度はアナタ、なんてことのないようにしてよね。・・・おいおい、全然明るくねーよ。これ以上続けると、何こそ言い出すかわからなくなってきたから、これにて失礼致します。またの機会を楽しみに、さよなら、さよなら さよなら。

この写真から間違いを探して下さい

7月の実践を語ろう会「異年齢保育について」の予備知識

札幌市内の状況だけで言えば、市立は結構やっついて、私立はあまりやっついていないという「異年齢混合保育(通称たてわり保育)」です。

構成は、3才児(2才後半の場合もある)から5才児が20名前後で保育者は2名程度の複数担任というのが多いようです。大きい子が多かったり、逆に3才児が多かったりとその年によって落ちつき度合いは結構違う様です。

生活の基盤はたてわりクラスなので、衣類等の置場や食事をするのはその部屋になり、散歩もたてわりクラスでいくことも多いです。ただ年齢の発達を保障する意味でも年齢別保育(通称よこわり保育)も必要に応じて行っています。

良い点は、異年齢の関わりで思いやりが育ったり(優しくしようという気持ち)、逆に憧れから意欲が育ったり(〇〇くんはカッコいいなあ、ぼくもやってみようという気持ち)、いい意味で競争のない穏やかな雰囲気の中で生活できる場所があります。そして子どもの中であそびの伝承、生活ルールの伝承が行われ、保育園の伝統が子どもたちによって築き上げられるすばらしさがあります。親も色々な子の事を知ることができるので、先々を楽しみに子育てができた(年長さんになったらこんな風になるのかというのが身近にわかる)、悩んでいる親にアドバイスがで

きたり（うちもこのくらいの時は…と話しやすい）という部分もあります。

難しい点は、「たて」と「よこ」の二つのクラスに所属する事になるので（例えば「ほしくみのつばめ」一ほしはたてクラス名、つばめは年齢の呼び名）、小さい子や新入園児は混乱しやすい事、定着するまでに時間がかかる事（始めた頃の2才児が年長のなったら結果が見えてくると言われている）、保育者が多くないとできない、子どもの思いや状態に応じて活動形態を臨機応変に変えていく保育者の技量と打合せの徹底、チームワークの善し悪しが如実に現れる点（うちのクラスが一番という競争意識が湧いたり、横並びを意識してしまったり）があります。

ある大学生の卒論で、たてわりの保育園とよこわりの保育園での子どもの調査をしたところ、たてわり保育園の子は優しさ・思いやりが強く、よこわり保育園の子は競争心が高いのだそうです。

この頃は小学校でも異年齢交流が積極的に行われているようです。みなさんの園はいかがですか。

詳しくは7月17日の例会で…。

平岸保育園 桑原 一司



「風に吹かれて」 保父修行物語 Vol 31

第二はとポッポ保育園 船戸 敬悦

札幌にたどりついて、もう1ヶ月が過ぎようとしていた。山並みのきれいな街だった。新たな新天地で、子ども達に絵を教えながら、創作活動をつづけていこう！という情熱があった。しかし、出来るだろうか、やっていけるだろうか！という不安もあった。

東区にあるアパートを借りて、「くまのプーさん」というアトリエを開いた。

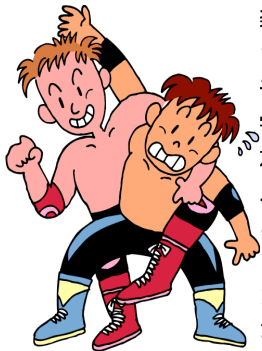
宣伝のチラシを作り地域にまいたが、さっぱり反応はなかったのだった。しかし、数日たったある日、一本の電話があった。

「くまのプーさんですか？」「はいそうです」「私、絵をおしえてほしいのですが…」「えっ本当にいいんですか？」私は嬉しくて、声がつい、たかぶってしまった。そして、小学校四年生の女の子Nちゃんが、アトリエで一番最初の生徒になったのだった。それからというもの、Nちゃんの友達のTちゃんと、その妹というように口こみによって、どんどんアトリエの子ども達の数も増えていき、総勢20名ほどの子ども達が入会してきた。アトリエでの主な活動は、水彩画・油絵・版画・彫刻など、自分達の興味のある手法で、素材や題材を自由に決めながら造形を

楽しんでいく！という方法だった。それぞれの子も達は、作ったり、描いたりすることが、根っから大好きな子ども達だったので、製作、創作している時の、真剣なまなざしや、態度には、感心させられるものがあった。ある女の子は、リンゴやバナナなど、くだものを、水彩絵の具と筆を巧みに使って細密画を描いている。そしてその横では小学校五年生の男の子が、油絵の具で

友達顔をじっくりじっくりと、ていねいに油絵の具を塗り重ねながら描いているのだった。シーンとしずまりかえったアトリエの中で、私は子ども達の絵をながめていた。すると、ある男の子が「センセー、プロレスやるー」と、言ってきたのだった。

私もついついのってしまって、「いーよー！」と答え、イーゼルをかたづけ、アトリエは、プロレスごっここのリングになってしまったのだった。“ドタン、バタン、キャー、タスケー、タッチ”と、物凄い音がひびきわたり、まわりの家や近所から苦情がこないかと心配だったが、キャーキャーと歓声をあげて、つぎからつぎ、とびかかってくる子ども達を投げとばしながら、本当にここは、アトリエなのだろうか？まるで、プロレスの道場ではないのか？と自分でもうたがってしまうほどだった。プロレスの次は「サッカーやるー」と、近くの公園に行き、夕方くらくなるまで遊んで、「センセーまたあしたー」と家に帰っていく子ども達。子ども達が帰ったあとのアトリエは、今までの子ども達の熱気はどこへいったのか？ともうほど、シーンとしずまりかえっていた。子ども達のパワーは凄い！これからアトリエの子ども達と、どれだけ、パワーを吸収しあっていくことが出来るのだろうか？私は、何か、心の中がワクワクしていく自分を感じているのだった。



パパは保母さん ～保父の育児日記～ ⑫

発寒ひかり保育園 西村 猛

我が妻“御懐妊！！”待望の2人目、そう、友希は来年の2月にはお姉ちゃんになる予定なのだ！。それにしても、なかなか2人目は出来なかった私達。妻は毎朝「基礎体温計」をつけたが、グラフが一定しない。折れ線グラフが異常なまでに折れすぎ、何がなんだか、いつがいつかさっぱり分からない。ある朝、「ピピッ」と体温計が鳴って終わりを告げていた。ふと妻を見ると、口をポカーンと開けて、よだれと共にその体温計のさが口唇にようやくかかっていた。「基礎体温計」の説明書には「口の中の体温を一定に保つために、必ず口は閉じて下さい」と記してあ

る。「こりゃだめだ!」。何度もそんな時があるのだから・・・。妻いわく「朝から5分間(計るための)の2度寝はきもちいいんだよ」そりゃ分かるけどサ、でもサー。

「最近、生理がこない」という妻の言葉に私は「あ、そう」と応えていた。この言葉に何度もだまされていた私は、もはや免疫が出来ていた。そこで妻の作戦は、「妊娠検査薬、買っていい?」と。私は「じゃ病院行ってきたらいいよ」。しかし「確認してから行っていい?」と。結果は“陽性”の赤マーク。「やったーやったー」と大喜びの二人に友希もなんだかわからず「やったー」であった。次の日、通院すると、「予定日2月5日、ただ今妊娠5週目」と正式なる“御懐妊印”いやーうれしいのなんのって。友希に「ゆき、お姉ちゃんになるんだよ」というと、「おねえちゃんだーやったー!!!」とバンザイしている。分かてるのかい、君は?まあ、いいか。この日は、仕事から帰ってきて、赤飯だったらOK、というきまりを作っておいたのだ。家に帰ると玄関先に赤飯のいい香りがしていたのには、もう飛び上がるほど、うれしく、その日の乾杯ビールがこれまた最高にうまかった。友希は1月生まれ、次は2月、つまり私たちは春に発情する動物なのであろう。ホホホー。

しかーし、この日の大喜びが、翌日まではもたなかったのである・・・

「オエー、グエー、ガー、ウヘーゴポー」とこの世のものとは思えない雄叫びが部屋中に響き渡る日々。その叫びは日増しに轟きに变化していった。「つわり」である。一人目の時の比ではない。トイレと、布団の往復を繰り返すかみさん。一人目となにより異なることは、友希がいるということ。遊びたいのに遊べない、甘えたいのに甘えることが出来ない。それは友希にとってもかみさんにとっても、精神的によい訳がない。それなのに我が娘、つわりのママに、「ママだいじょうぶ?、きもちわるいの?がんばって!!」と声をかけ、「ゆきのところにおいで」と両手を開いて抱いてくれる。「あかちゃん、おおきくなってね、ママがんばってるからね、あかちゃんもげんきでね」と、かみさんのおなかをなでなでしてくれる。あーなんと心優しい2歳5カ月。涙なみだである。そんな友希にかみさんも「がんばらねば」と思ったらしく、「これからのつわりの日々に向けての買い出し!!」と、スーパーに大量の買い物。家に帰って、愛車の電動アシスト自転車「PAS」(ちなみに、こがなければ前には進みません。でも坂の多い西岡では強力なパートナーであります。キューーンキューーンと、その早さは並ではない!!妻30歳バースデイプレゼント)を物置に片付けました。10Kgもあるものをです・・・。翌日、出血。

「PAS」事件を知らない私、(後になって聞く!「カラー!!!」である)仕事に行く時に「血が出た」と聞き、「病院行ってこーい」の一言を残して職場へ。

妻、入院、絶対安静、10日ほど入院した方がいいとの医師のコメント・・・ア然。思えば友希の時も、「妊娠・即入院」でした。(子宮外妊娠の疑い)その時は結局、風邪を治して退院しただけ。しかし、今回は出血ですから、気が気ではない私。そして、問題は友希がいるということ。「保育園に一時保育をお願いしても、送迎はどうする?」「母子同室にしても、友希を見きれない」「じいちゃんにまかせたら、大変」「ばあちゃんは、今、東京にいて仕事もしてるし・・・」「そうだ!オレの職場なら、一緒に行って帰って来れる。でも・・・顔を見てるだけで、かまってやれないほどかわいそうなことはないナー」etc・・・

結局、東京に行っていた(私の祖母の世話等で)ばあちゃんが、仕事を休んで戻ってきてくれたのでした。

そして妻、無事退院。友希と私とばあちゃんのトライアングルの完成。食事、風呂とワキアイアイの友希、「おやすみ」と2階へ(我が家は2世帯)歯磨きして、絵本読んで、「さあ、ねよう」とパパ。と、突然「うえーん、ママ、ママにあいたいよー」と大泣き。パパ抱っこするも「チャーチャン」(ばあちゃんのことを西村家では代々こう呼んでいる。「ばあちゃん」と言わせたくないだけなのだろうが)「チャーチャンがいいー」と、とてつもない泣きであった。どうしたって泣き止まず、チャーチャン、下からやって来て、友希を寝かしつけて、また帰っていく。「やれやれ」とパパは入眠。朝4時、「チャーチャン」とまた大泣き、結局チャーチャン、2階で一緒に寝ました。次の日もまた同じ。

パパ、少々自信無くしてしまったのです。しかたないと思えばそりゃそうだけど、「あんまりだー友希!!!」と心の中では大声で叫んでおりました。自分の中では、「オレとでも大丈夫サ」と思っていたので、ショック状態。そんな3日目、妻退院。「えーあの10日間安静は何?」でしたが、まあ、けっきょくは、「PAS」が原因だったのでしょう。それだけで、良かった良かった。

かみさん家に戻っても、つわりが重く、友希の世話はチャーチャン。もはや入り込む余地はない程です。何をするにでも「チャーチャンと!!!」しかし、私にもチャンスがやってきたのです。それは休みの日。「パパの車でショベルカーのある公園に行こう!!!」ギラッと輝く友希の瞳。こうなればしめたもの。休みの一日は、布団を上げて、そうじして、洗濯物を干して、そして公園へ。まるで主夫。前日は二人だけでドライブしたり、プリクラとったりとデートした甲斐もあって、公園ではもーベタベタのカップル。「パー」と手を振って草原を走る娘。「いっしょにのろー」「パパとすべりだりするー」「みて、みてー」とそりゃもう、たのしいひとときでした。帰っても、「またいこうね」と愛くるしく言われ、パパはデロデロリン。ポカリスエットを買ってあげてしまいましたー。かみさんとは言う、つわりは未だにひどいが、先日治療院にいつてツボ押ししてもらったら、良くなってきたのですよ。私も職場でヨガをやってるんで、その先生に「つわりのツボ」を教えてもらい、かみさんに連夜ご奉仕しております。「あー楽になって来たー、ありがとうパパ」さすが「ほめごろしゴルゴ30」言うこともツボを得てるぜ!!(これぞ東洋医学の真髄!)少しずつ良くなった

かみさんは、「ねえ、公園まで「PAS」乗っていい?歩くと大変だし、時間なくなるし・・・」と甘え声、その声をうっとり聞きながら、私は、「絶対ダメダー」と猛反対!!。自転車なんて、PASなんて、しばらくは絶対乗せませーん!

=完=



7月例会予告

7月17日(金)、リフレ札幌にて7:00から行います。(2Fかしわです)

今回は、前会長“お久しぶり”桑原氏の「異年齢保育を考えよう」by実践検討会part2です。みなさんの職場では、異年齢保育に取り組んでいますか？ 異年齢保育って何？ いい所って？ マイナス面あるんじゃない？ え〜、2歳〜6歳と一緒に生活するの？ 考えられなーい。etc...

みなさんが普段思っていたり、考えられなかったり、また、実際に取り組んでいたりにしているかと思えます。ぜひ、そんな話が広がる場にしたいと思っていますので、多数の参加をお待ちしています！！

ちなみに、私の園では、卒園時のお別れ会に向けての異年齢活動が一番大きなものかナー。日々の自由あそびや、気まぐれの「一緒に散歩いこー」っていうものもありますが、年長をもっていると、月齢の高い子の能力に月齢の低い子がついて行けなかったり、ひっぱられちゃったり、影がうすくなったりと、クラス保育の壁も感じている今日このごろ。みなさんはどうでしょうかねっ

「7月の例会、行く！！」というあなた、

855-5616の西村まで 7/14(火)まで連絡を！

「いけなーい」というあなた、

855-5616の西村まで 7/14(火)まで連絡を！

(連絡網まだできてないんですよ、スンマセン)

追伸、6月の飲み会、妻入院中の為 欠席の私、「飲んでる場合じゃないだろー」でした。5名のみの参加とか。細、おつかれさまー、ほんとに。なんか寂しいね、行けなかった私がこう書くのもなんだけど、「行けるのか、行けないのか」の連絡もなかったって。「保父会の未来が見えた」by細。どうしたら、みなさんがもともとめる会になるのかナー、わたるの「バランスが大事だな」というのも解かるけどサ。みんながやりたいことって何？

もっと刺激を与えて下さい。保父会に。みんなの力を集めて、いい会にしていこうよ。オレも楽しい会にしていこうと思ってるからサ。特に若手の君たち、POWERを出してくれ、一発かまそうぜ！！

もうすぐ「おとまりかい」 ワクワクの西村より

事務局より

平成10年度の年会費を受付ています。

事務局宛郵送か、銀行振込でよろしく。

銀行：****銀行 ****支店

口座：普通*****

名義：*****

前号&今号と事務局は楽しています。前回は浅利君がワープロ打ってくれましたし、今回は細谷君がやってくれました。私はそれをConbertするだけです。次回は誰に振ろうかな？



事務局 ☎001-0020 札幌市北区北20条西3丁目19番地 幌北中央保育園内

☎ 011-716-1841 Fax 011-716-1852

北海道の子どもと保父の会

三村 信行